

建築における接地性

指導教員 吉松秀樹教授 印

OBEB1133 半田 千尋

1. 集合住宅の林立する都市構造

実地調査で、集合住宅が林立した都市構造 (fig.1) や建築内部に人の生活を収めている建築の建ち方 (fig.2) を見て、土地とのつながりを上手く形成できておらず、「接地性」が低い建築であると考えた。



fig.1 横浜市青葉区青葉台



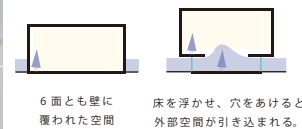
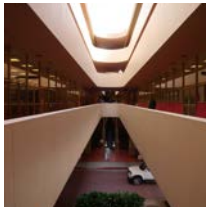
fig.2 現在多く見られる基礎

人のアクティビティがにじみ出さない建ち方
外部空間から生活が遠い
= 接地性が低い

2. 建築と街の文脈の接点の在り方

「接地性」は、地域と関係を持つことで土地とつながることと定義し、そのためには土地勘の有無が重要であると分析した。

人の留まる場所である内部空間に対し、外部空間は人が移動し交流する場所とし、建築と地面（外部空間）の接し方を考えた (fig.3)。

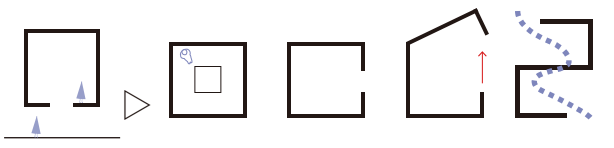


6面とも壁に覆われた空間
床を浮かせ、穴をあけると外部空間が引き込まれる。

fig.3 街の文脈に建築が重なっている例(マリン郡庁舎/ライト)/ダイアグラム

3. 移動と留まりの断面的関係

人の活動の気配を感じる建築は土地勘につながる分析し、外部空間の動線を街のコンテキストとし、その上に建築が存在することで接地性を高めることができると考えた (fig.4)。



断面的関係を平面に転用！
四方が壁に囲まれた空間
壁に開口を空ける
開く
1枚の壁を折る
外部空間への接点が増える

fig.4 人の活動を感じる建築の手法ダイアグラム

4. 外部空間との接点を増やすシェアハウス

外部空間との接点の多いシェアハウスを提案する (fig.5,6,7,8,9,10)。内部空間は必ず街のコンテキストを受けている空間と接し、街の様子を常に感じながら生活することができる。住民は建築内のどこにいても視線が通ることによって常に土地の情報を得ることができる。



fig.5 model_1: ピロティ



fig.6 model_2: 壁を開く



fig.7 model_3: 居室の壁をなくす

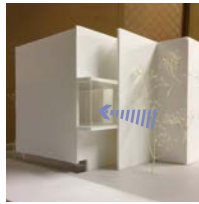
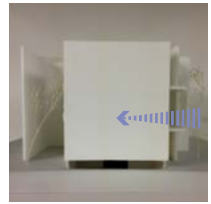


fig.8 街のコンテキストを引き込む模型写真

壁を開く構成で、街のコンテキストを引き込む。

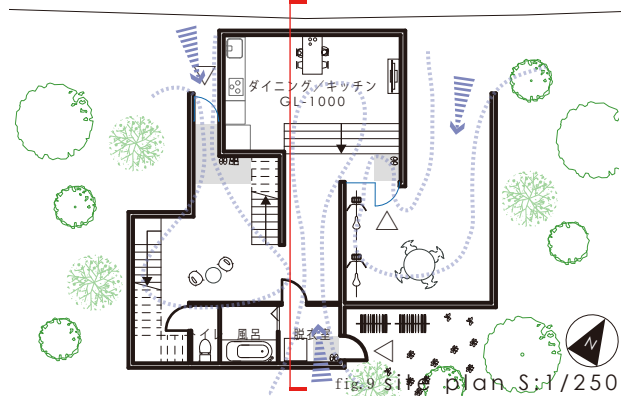


fig.9 site plan S:1/250

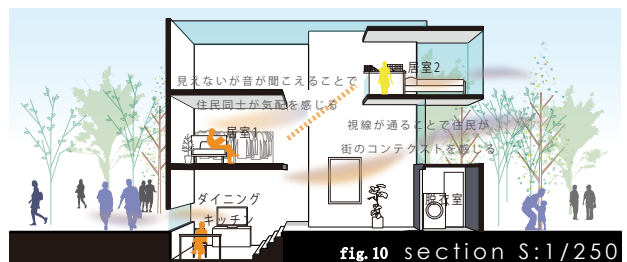


fig.10 section S:1/250